

電話自動応答装置の設置

勤務時間外の電話対応に関する対策として市内全校へ電話自動応答装置を設置。
ナンバーディスプレイも合わせて導入することで校務環境を整えた。

令和6年度から 目標削減時間 約60時間/年

(一人あたりの目安)

目指す効果

- 勤務時間外の電話対応が減少することで、校務に集中でき、時間外在校時間の減少に繋がる。
- 欠席・遅刻・早退に関する連絡がクラウドサービス環境に一元化されることで保護者と学校間のやり取りにおいてデジタル化が進む。
- 勤務時間外の対応について、保護者や地域の皆さんに学校の対応時間外という認識が広がり、勤務時間の適正化を図ることができる。
- 保護者においても欠席連絡等に対する時間短縮に繋がり、都合に合わせてスマートフォンから連絡ができる。

課題・対応

- 応答メッセージで、緊急時は市の窓口へ連絡するように案内することで対応を図った。
- 保護者の方から御理解・御協力を得られるように市教委と学校の連名で保護者通知を発送した。
- デジタルに慣れていない保護者に対して、理解を得られるように丁寧に案内する必要がある。

緊急対応時の連絡系統



自動応答切替

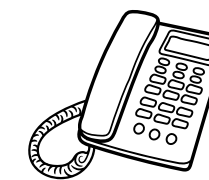
自動応答時間（平日初期設定）

小学校 18:00 ~ 07:30

中学校 18:30 ~ 07:30

※学校によって切替時間は異なる

※土日は終日



応答メッセージで緊急時は塩尻市役所への連絡を案内



塩尻市役所 守衛室



学校



外部団体等からの学校経由配布物の電子化

外部団体等から寄せられる学校や児童生徒・保護者に対する配布物を電子化することで対応にかかっていた時間や労力が削減され、業務の負担軽減に繋がる。

令和5年度から

目標削減時間 約40時間/年

(担当者一人あたりの目安)

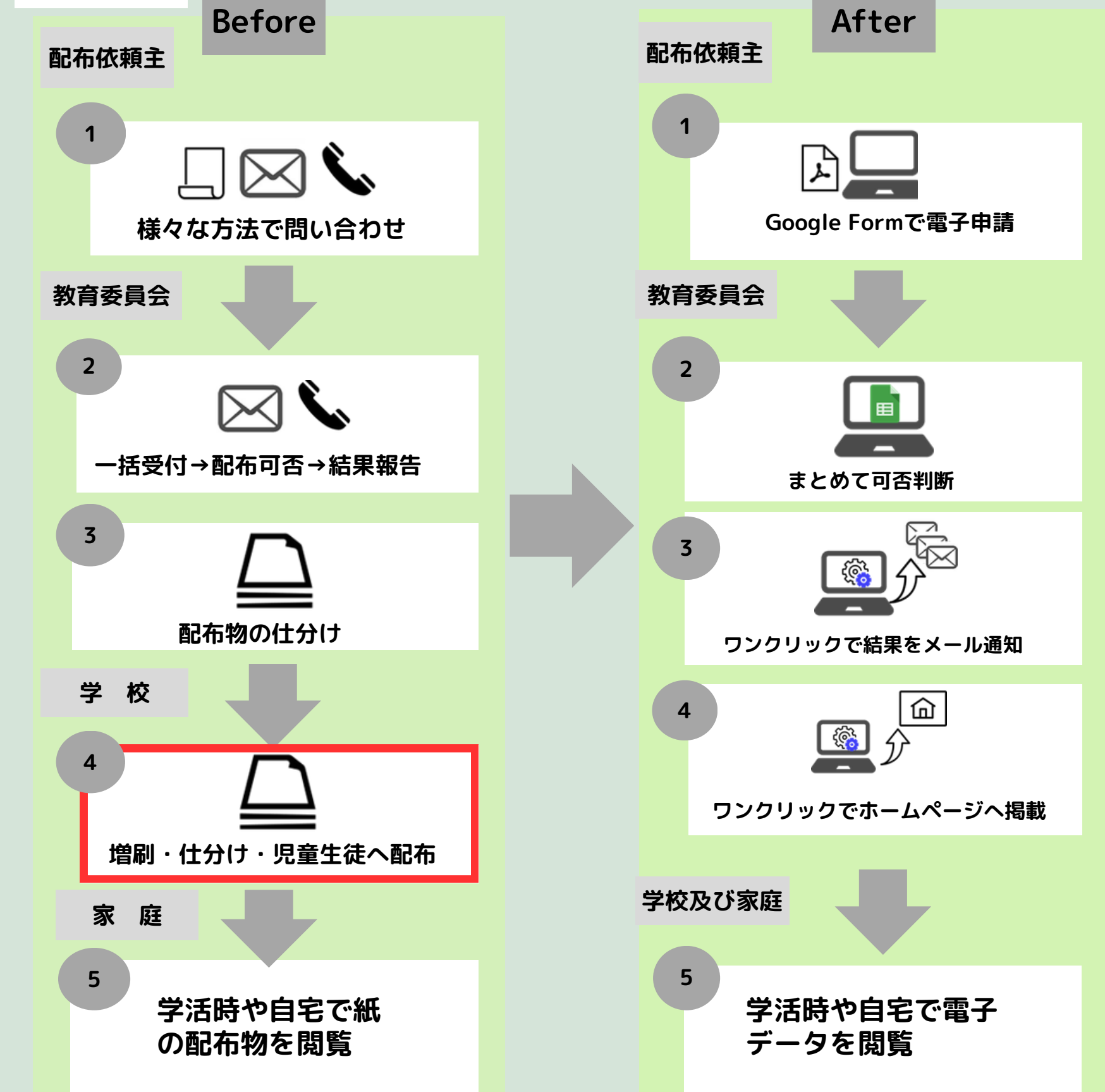
目指す効果

- 市教委から学校と保護者間の連絡手段であるH&Sアプリへ配布物のデータが送信されることで今まで行っていた学校による窓口対応・増刷・仕分け・配布の業務負担が解消される。
- 配布物が多く、そのまま破棄されていたものもあった状況から電子化が進むことで必要な情報を自由に選択できるようになり、紙の使用量が削減されることで環境に優しい運用に繋がる。
- 一斉配信により、学校間で生じる情報取得のずれが解消される。
- 学校や保護者の情報のやり取りに関するデジタル化が進むことで学校によるDX化に繋がる。
- 児童生徒数が多い学校ほど配布作業に係る負担が大きかったが電子化が進むことにより解消される。
- 紙ベースで児童生徒へ配布されることで、各々の家庭に情報が伝わるまでに時間差が生じたが電子化により防ぐことができる。

課題・対応

- 紙から電子になった場合でも、月に3回程度、学活の時間等で配布物を見る機会を設けるなどで児童生徒が情報に触れる機会を作る必要がある。

業務フロー



地域ボランティアとの連絡調整

市の職員である中学校区単位で配置されている学校支援コーディネーターの存在により学校の要望に基づいたボランティアとの調整がスムーズに行われる。

平成28年度から

目指す効果

- 学校支援コーディネーターは学校職員であるとともに、担当学区の住民であることから、地域のことを熟知しており、学校職員からも気軽に相談できる立ち位置となっている。
- ボランティアの方々と学校の先生方を結びつけることにより、児童生徒の学習効果や学習の喜びが高まる。
- 「ボランティアの応援が欲しい」という学校のニーズと「ボランティア活動がしたい」という地域住民の思いが結びつくことで地域活性化に繋がる。
- 子どもたちの学びの狙いを理解して、支えることでより深い学びに繋げることができる。
- 月に一度、学校支援コーディネーター会議を行い、情報や課題の共有を図ることで可能なコーディネート幅を広げている。
- 学校運営協議会や地域教育協議会の運営に関わる準備・まとめを行うことで継続的且つ持続的なコミュニティースクール活動が進められ、職員の理解にも繋げることができている。

<塩尻市におけるコミュニティ・スクールのイメージ>



<学校支援コーディネーターの配置>

市内には6つの中学校区がある。それぞれの小学校と中学校を担当学校として活動。

<学校支援コーディネーターの役割>

- 地域のネットワークを密に様々な学校支援ボランティア活動を充実。
- 学校運営協議会や地域教育協議会の事務局。
- 担当学区における学校運営協議会や地域教育協議会の小中一貫・連携体制を図る。
- 市に地域連携コーディネーターを設置することで学校支援コーディネーター同士の情報交換を密にし、市内ネットワークづくりを推進。

塩尻市に設置するコーディネーター



部活動の地域展開

長野県の方針に沿い塩尻市中学校部活動地域移行計画を策定し、令和8年度末までに休日の部活動地域展開を目指す。塩尻市は「対話」により各種目ごとに部活動地域展開を推進している。

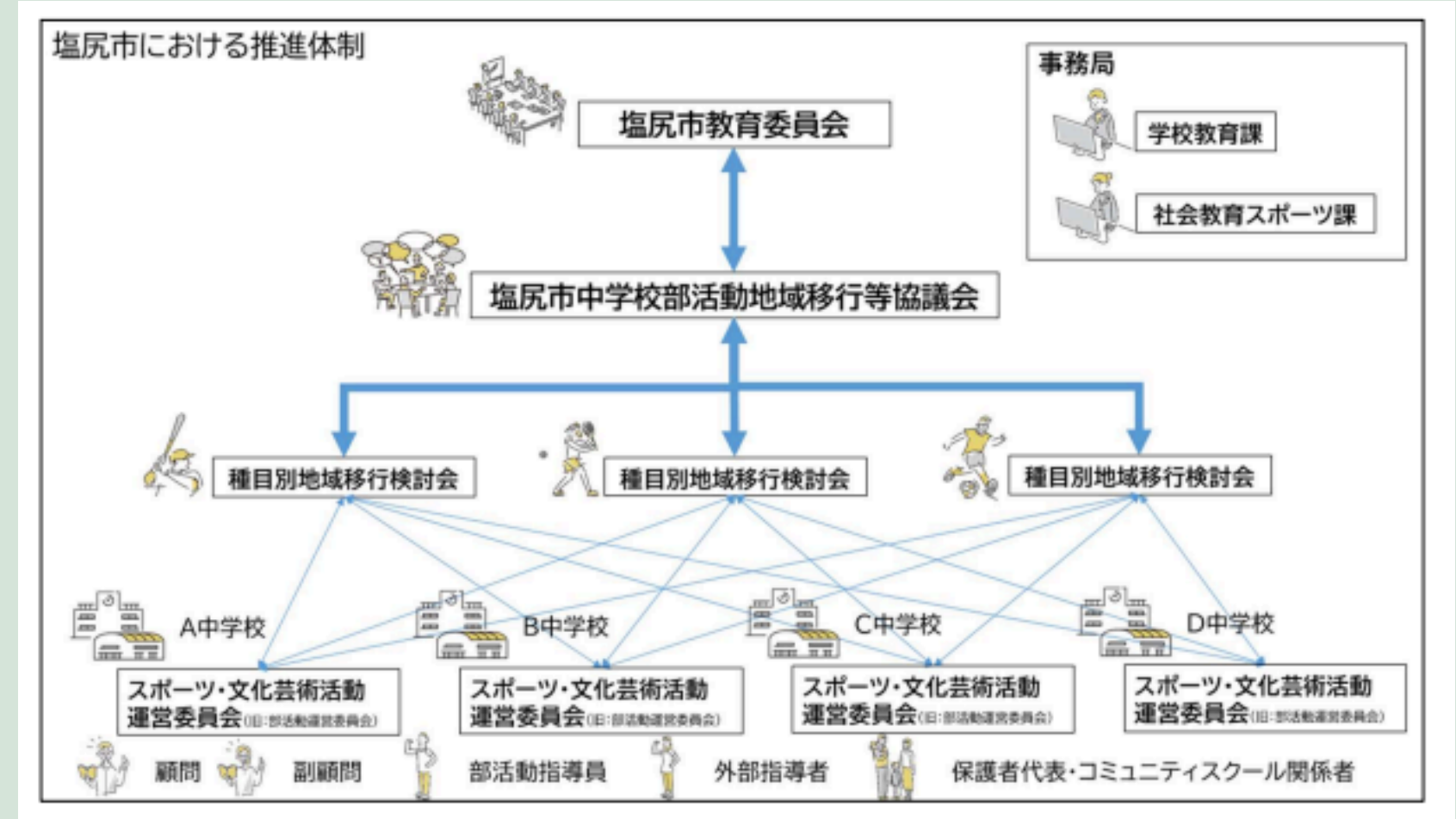
令和9年度から

目指す効果

- 部活動の指導をしたい顧問は、地域クラブの指導者として兼職兼業を可能とすることで、クラブから適切な指導報酬が支払われる（ボランティア状態の解消）。
- 地域移行したクラブ活動は中学校時代のみならず、生涯スポーツ学習として活動が可能であり、様々な役割で地域住民が関わるができる。
- これまでは専門外の種目であっても部活顧問となることがあったが、引率なども含めて不要となる。

課題・対応

- 地域クラブの指導者報酬等を確保するために原則受益者負担が発生する。
- 国・県の具体的な支援策が発表されていないため、塩尻市としての支援策も具体的に決定できない状態である。
- 学校施設の予約について、部活動地域展開のための地域クラブの活動を優先するため、それ以外の社会スポーツなどの利用が制限される。
- 休日の活動場所を用意していくことが大切。また、その場所を検索しやすい環境を整える必要がある。

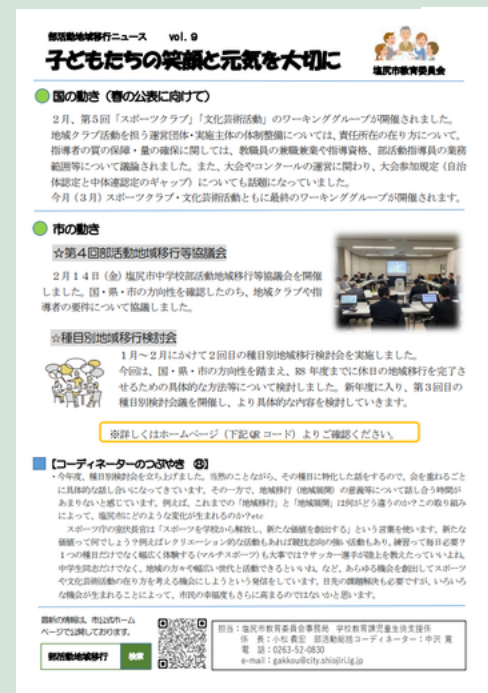


< 塩尻市中学校部活動地域移行等協議会の様子 >



< 地域移行ニュース >

塩尻市の部活動地域移行総括コーディネータが塩尻市の取組や国、県の情報など様々なニュースを市内小中学校へ届けている。



学習評価や成績処理

市内中学校4校で自動採点システムを使用し、テスト採点を実施した。定期テストの採点を自動化して、採点処理の効率化を行うことで負担軽減を図った。

令和7年度から

目指す効果

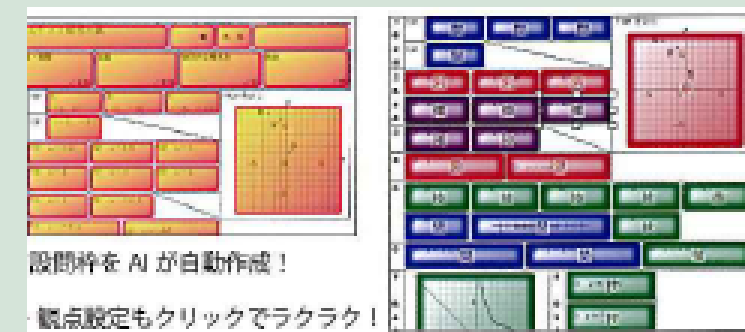
- 採点事務の負担軽減と採点ミスの削減に繋がる。
- AI採点箇所への作業時間短縮に繋がることで記述問題の採点に注力することができ、単元に対する生徒の理解度把握に活かすことができる。
- 自動採点システムにより、効率的に採点ができることで生徒への答案返却が早くなる。
- データの分析や蓄積など更なる活用に繋がり、生徒の個別指導や学級全体の指導に広げることができる。
- 扱いやすいソフトを採用することで利用に対する抵抗感が減る。

課題・対応

- ソフトに慣れるまでサポートする環境を整える必要がある。
- 自動化による一律的な採点になるのではなく、生徒に向きあったテスト採点を心がけ、生徒への理解や指導に繋げる必要がある。
- データ分析を深め、生徒指導の質を高められるようソフトの更なる活用を探求する必要がある。

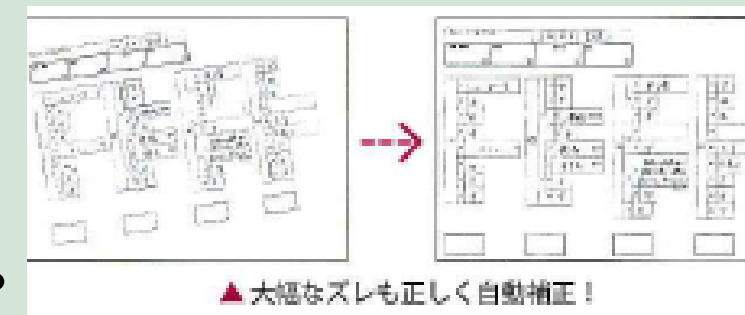
Step 1 - 事前設定

AIが答案用紙を読み取って設問枠を自動作成。すべてクリック操作で、入力作業は必要なし。



Step 2 - 答案アップロード

答案用紙をスキャンする際にずれた場合でも、AIが自動で補正。答案の生徒順がバラバラでも出席番号を自動で並び替え。



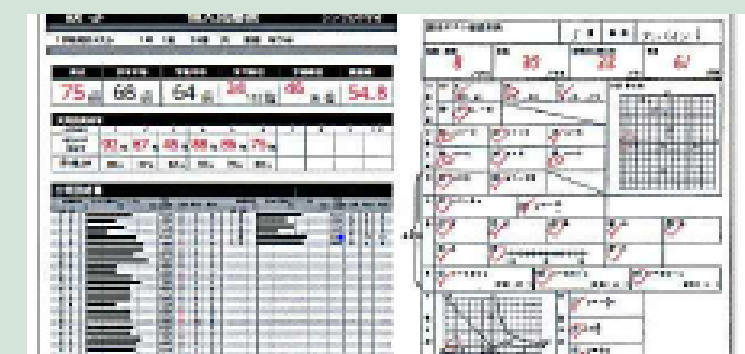
Step 3 - 採点

生徒の解答を並べて採点することで効率化。選択肢・マークは自動採点。複数クラスの一括採点や先生同士の分担採点も可能。



Step 4 - 答案返却

答案・個票PDFを自動作成し、出力が可能。設問ごとの解答の傾向も確認でき、模試のような複数教科個票もできる。



水泳授業の外部委託

学校外のプール施設を使用し、水泳授業を民間の指導員や監視員に委託することで学校の授業にかかる職員の負担軽減に繋げる。

令和7年度から

目標削減時間 10時間/年

(担任一人あたりの目安)

目指す効果

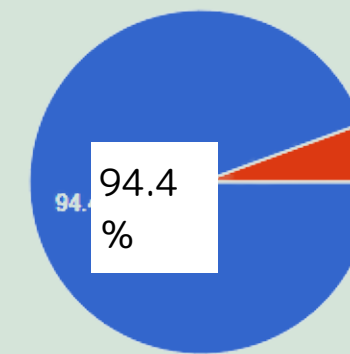
- 学校のプール施設維持に向けた水質や水温の管理に係る労力と時間が削減される。また、授業に係る準備や片付け作業がなくなる。
- 水泳指導を得意としない先生については、授業に対する負荷軽減の効果が大きい。また、児童生徒への評価に集中できる。
- 専門的な指導により、上達が見込まれ、学習意欲の向上が期待できる。
- 屋内プールを利用することで天候に左右されず、安定的な授業実施が可能。また、猛暑や紫外線による児童生徒の健康被害を防ぐことができる。
- 監視員の設置により安心して安全な授業体制を整えることができる。
- 学校のプール施設維持に関するコスト削減が可能となる。また、老朽化による安全面の配慮をしなくてもよい。
- 他校間交流も視野にいれることで共同授業による交流活性化に繋がる。

課題・対応

- 市内全校への拡大を見込むにあたり、プール施設や指導員の確保等の受け入れ体制を整える必要がある。
- 移動手段であるバスの確保や調整に配慮していく必要がある。
- 防火水槽としての使用など後利用も視野に入れた調整を行っていく必要がある。
- 外部委託するにあたり、授業内容に関する学校の先生と指導員との入念な打合せが大切となる。

R7 洗馬小学校児童アンケート (204件回答)

これからも外部委託をお願いしたいですか？



● 思う
● 思わない

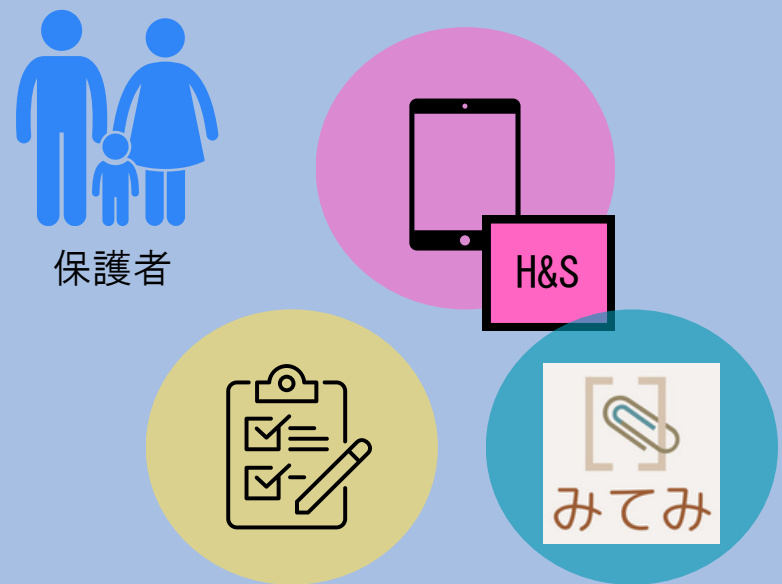
- もっとたくさんの泳ぎをマスターしたいから。
- 中だから冷たいとかぬるいとかがないから。
- 綺麗だし広いから。
- ヘルスバは室内プールだから涼しいし寒くもないから。
- もっとおよげるようになりたいからこれからもヘルスバでやっていきたいと思う。
- とても楽しくて、バスで行くのも楽しみだし、着替え室が綺麗だったから。
- ヘルスバは広いし、綺麗だったから教えてもらいたいです。
- シャワーがあたたかいし、プロのコーチがきっちり教えてくださるからです。
- 教え方も分かりやすいし、なぜか出来なかったことができるようになったからです。なので、まだまだ教えてもらってもっと出来なかった技をできるようになりたいです。
- 学校のプールで授業をやるよりもヘルスバの方が教え方とかわかりやすいから。
- 学校のプールよりきれいだし、友達と楽しく授業が受けられるし、教え方は分かりやすいからです。
- いく時間ももったいないし学校のプールの方がなんか楽しいから。



安全・安心を第一とした授業を目指している

塩尻市 校務DXの取組について

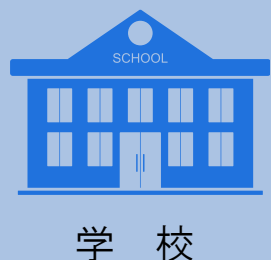
本市では、令和7年度リーディングDXスクール事業において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けてクラウドを活用した授業づくりを目指している。そのために市教委等による伴走支援や学校間による横転換を強化し、学校現場のDX化（校務DX）をより一層進めていき、教職員の業務の効率化や保護者連絡の迅速化や確実性に波及させたいと考えている。また、学び方や働き方のDX化が加速化することで、教育効果の倍増に繋がっていききたい。



H & S
 機能：欠席・遅刻・早退連絡、連絡帳、お便り配信（学校・学年だより、献立表）他
 効果：保護者との連絡が電子化されることでペーパーレス化が進むと同時に情報伝達が迅速かつ確実となった。

ながの電子申請
 機能：調査票の電子化
 効果：調査票の配布及び回収の電子化により、C4thへの手入力作業の軽減や保護者への負担軽減に繋がる。

みてみ
 機能：民間団体から届く各種案内通知の電子化
 効果：学校から保護者へ発信するお便り等の紙での配布が廃止されることで市教委や学校の配布負担解消や情報の確実な伝達に繋がる。



国では、校務DXに向けた方針として「教育DXロードマップ」を掲げ、デジタルに変えることとして以下の「12のやめることリスト」を作成している。

【①電話等による児童生徒の欠席連絡等の受付②紙での保護者への調査・アンケート③紙での各種調査票等の学校から保護者への配布・保護者から学校への回収④紙での教職員への調査・アンケート⑤新入学児童生徒の名簿情報の校務支援システムへの不必要な手入力⑥電話や書面による保護者との日程調整⑦職員会議等資料の紙での共有⑧紙での児童生徒への調査・アンケート⑨学校から保護者へ発信するお便り等の紙での配布⑩教職員が作成した教材等の各自での保存⑪学校徴収金の現金徴収⑫紙での学校内外の行事日程や特別教室等に係る利用予約等の管理】



校務支援システム

C4th
 機能：生徒名簿・個人情報管理、成績管理 他
 効果：①児童生徒の情報が集約され、主に通知票や要録の作成へ活用が可能。②H&Sとの連携により、出席簿への入力が省力化。③各自に行われていた新入学児童生徒の名簿情報の手入力の解消。

汎用的クラウドツール

Google Docs (ドキュメント)
 機能：資料作成 他
 効果：①職員会議等資料の電子共有②同時編集による効率化や教材研究の共有

Google Sheets (スプレッドシート)
 機能：行事日程や特別教室等に係る利用予約等の管理 他
 効果：同時編集により共有や活用が可能。

Google Chat
 機能：職員連絡 他
 効果：市内学校間や教職員間等での連絡や情報共有を効率化。

Google form
 機能：調査・アンケート 他
 効果：集計作業の効率化が進み、業務改善に向けた分析に繋がる。

ロイノート
 機能：児童生徒向け資料の配布や授業での活用
 効果：授業準備・記録・共有がデジタル化され、業務負担が軽減される。

テストのAI採点
 機能：自動採点、テスト結果の集計
 効果：採点の負担軽減や分析に役立つ。